

# 高見保育園 2023年度保育園 評価反省チェックリスト

(保育士20名回答)

(評価方法：1…とても思う 2…思う 3…どちらともいえない 4…そう思わない)

	1	2	3	4	無回答
Q1 保育園の理念は、わかりやすい 「生きる力を育てる」 「自分で考え、自分で選び、自分で行動する子ども」	13	6	1	0	0
Q2 保育園の理念、方針は保育に生かされている。	7	12	1	0	0
Q3 保育園の理念、方針は、子どもたちの育ちに生かされている。	11	8	1	0	0
Q4 日々の保育、エピソードなどについて園長や他の保育士と話す機会がある。	13	6	1	0	0
Q5 保育園の方針や保育目標がその時々幼児に合ったものになるように見直せる雰囲気だと思う。	6	13	1	0	0
Q6 園児のしたいことや、興味のあることを取り入れるために職員間の意思疎通、個々に意識して保育できる環境にある。	7	13	1	0	0
Q7 全ての園児について、一人ひとりの最善の利益とその人権を尊重するように気を付けている保育園である。	8	11	1	0	0
Q8 保護者との信頼関係のよい保育園である。	5	13	1	0	1
Q9 トラブルがあった際の対応は、不安なく園全体で対応できる。 (ケガ、誤嚥、感染症、防災、疾病、保護者対応等)	5	13	2	0	0
Q10 各種マニュアルなど、整備されている。	9	8	2	1	0

令和5年度を振り返って

令和5年度は、相模原市から支援保育研究施設に認定されたこと、新体制の保育が地域に浸透してきたことにより入所園児が増え、今後の施設運営の展望を描く足がかりとなりました。

支援保育研究施設に認定され、医療的ケア児の受け入れ可能施設として市のパンフレット等に紹介されたことにより、保護者や他園から支援保育についての相談を受けたり、他保育園保育士を呼んで支援保育についての研修会を開くなどの活動を行いました。保育については「子どもの主体性」を大切にして進めていますが、その根拠を「人権を大切にする」ことから作り出された保育の形として、実際に見学に来た方が「子どもたちがのびのびと過ごす姿」や「保育士がおだやかに見守る姿」が好感持てると感想を多くいただきました。

保育内容は、昨年度同様に子どもの遊ぶ場所（室内・園庭・散歩）・玩具・友達は子ども自身が選ぶこと、給食をランチルーム形式にして11時～12時30分の好きな時間に食べに行くことなどがあげられます。ただし、ルールのある運動を伴う遊びや制作の技法など、出来ることが年齢ごとに違う遊びがあるので、それぞれの発達段階だからこそ経験や探求出来る環境をつくるため週3日午前中に年齢別クラスに分かれた時間を設けています。

（0、1、2歳児クラスは他クラスと交流ありますが基本的にクラス別で保育をしています）

令和5年度に受講した職員研修の一覧

●園外研修（職員派遣型研修）

- ・保育者の心構え、コミュニケーションスキル（新任保育士）
- ・主体的な遊びの重要性
- ・配慮を要する乳幼児の理解
- ・相模原市保育ガイドラインの理解と活用
- ・乳幼児の事故や疾病への対応
- ・保育所保育指針への理解
- ・子どもの権利、人権の尊重
- ・食育の理解と実践
- ・ミドルリーダーに求められるもの
- ・次世代の保育者を育てる
- ・実践に生かす記録と保育の振り返り
- ・組織を育てる主任保育士
- ・園内研修の進め方
- ・食事提供者の衛生管理
- ・アレルギー疾患の理解と対応
- ・事故や事件のリスク管理
- ・小学校との連携及び小学校教育との接続に関する研修
- ・乳幼児の心持ちを大切に ～保育者に期待されること～
- ・マジックと音楽と絵本 ～子どもの世界を彩る3つの魔法～
- ・地域の子育て家庭への支援充実に向けて
- ・医療ケア児の生活と看護
- ・経営開発セミナー
- ・命を守るために ～災害発生時に最善の判断と行動をするために備えたいこと～

●園外研修（キャリアアップ研修）

- ・乳児保育に関する研修
- ・幼児保育に関する研修
- ・食育・アレルギー対応に関する研修
- ・障害児保育・特別支援教育に関する研修
- ・保健衛生・安全対策に関する研修
- ・マネジメントに関する研修
- ・保護者支援・子育て支援に関する研修

●園内研修（外部講師による研修）

- ・「わかってほしい！気になる子～感覚や運動の視点から～
- ・「AED救急救命法」
- ・小児の健康で気をつけたいこと
- ・マイナス0歳から始める予防歯科
- ・救急救命「心肺蘇生・嘔吐物除去法・気道確保」

●園内研修（園職員の勉強会としての研修）

- ・保育所内における嘔吐物処理訓練及び感染症に関する確認
- ・子どもの夢をかなえよう！
- ・子どもの人権について
- ・プール事故の恐ろしさと防止のためにやるべきこと
- ・支援を要する子どもたちの対応について